

平成21年度第8回 第3部会 会議概要録

開催概要

- 名 称：第8回 東区自治協議会 部門別第3部会
- 日 時：平成22年2月17日（水） 午前10時00分～午前11時40分
- 場 所：東区役所分館 A 会議室
- 出席者：委 員
滝澤（宇）委員，大河内委員，滝澤（莞）委員，小柳委員，小川委員，
春木委員，星島委員，鷺津委員，鈴木（昭）委員（欠席：田宮委員）
- ：オブザーバー
新潟交通(株)下山営業所 田村所長
- ：事務局
（東区）地域課長，建設課長，地域課職員2名

審議内容

- 東区のバス交通について意見交換
 - ◆ バス交通の現状と課題について
（田村所長より，とりまく現状や課題などを含めて新潟市のバス交通について説明）
 - ・現在，新潟市内ではオムニバスタウン事業を行っており，より良いバス交通を目指し国・市・バス事業者が互いに協力し合い取り組んでいる。バス車両・バス停・待合所などのハード整備，路線・ダイヤなどのソフト分野の整備を同時進行という形で進めている。東区では，ようやく昨年秋からノンステップバスが113号線を走り始めた。
 - ・まちづくりとバスや鉄道などの交通機関は切っても切れない関係だと思っている。良い施設を造ったとしてもそこに行くための手段が確保されていないと意味を成さない。まちづくりと交通は一緒に考えていくべきだと常々思っている。
 - ・とかく交通機関の議論は後回しにされがちだが，最近では大型ショッピングセンターや病院，学校などの施設内へバスを乗り入れる例もでてきており。バス事業者としてもそこでバスが折り返せるなどのメリットがある。
 - ・バスだけでは交通というのは完結しない。電車や飛行機，船への乗り継ぎなどによりアクセスが完結すると考えている。私どもでは，乗り継ぎの結節点を分かり易くハッキリさせようという取り組みを進めている。
 - ・今までは，万代シティ始発～古町や新潟駅終点など始終点がバラバラで分かりづらかったが，最近その始終点を統一しようと進めている。主に西新潟方面については，ここ数年で始終点を新潟駅にした。東区，東新潟方面については，万代シティが空洞化するのではないかという議論もあるが，始終点を新潟市役所にしたいと考えている。
 - ・基本として西からは新潟駅，東からは市役所とするバス路線網を整備していきたい。そう

という意味では榎谷小路，東中通，東大通この幹線部分ではどこでも乗り継ぎできることになり，お客さまの利便性も非常に増すものと考えている。

- ・現在のバス利用の状況については，一般バス路線の利用者は明らかに減っており，平成元年を100とすると平成20年は半以下となっており，年度ベースだと4～5%ずつ下がっている結果となる。また，ピーク時の昭和44年と比べると約1/5までに減っている。このような傾向は新潟に限った話ではなく，全国的に見られる傾向である。
- ・路線バスの運行には，車両や運転手の手配をはじめバス停，運行計画，運賃など国交省への申請準備があり，特に運行計画，安全性，採算性については重要な要件となる。更に一度引いた路線は少なくとも1年間は運行しなければならない。これら制約がとても多く，どうしても慎重になるというところをご理解いただきたい。
- ・そこに住んでいる方，利用される方のニーズが最も大切なこと。今の路線，運行計画が皆さんのニーズに合致しているのかが悩みどころであり，ともすると私どもが引いたレールに無理やり乗っているのではないかと常に考えている。
そのことから，利用者の本当のニーズを探りたいと思っており，このような場を設けてもらい非常にありがたいと思っている。特に東区には営業所が3ヶ所あるので，そこを窓口にしてお客さまのニーズを把握し，運行計画を立てていこうと考えている。今回に限らず，皆さんから意見をいただければ非常にありがたい。喜ばれるバス路線，ダイヤというものが作っていただけるのではないかと考えている。
- ・新しい路線や運行計画を立てるのは規制もあり非常に難しい部分もあるが，それで諦めては何もできない。ぜひ，こうした議論を進めていただいて，私どもに一報いただきたい。お役に立てるのではないかと考えている。今後ともよろしくをお願いしたい。

◆ 区役所移転後のバス路線についての意見交換

【主な意見等】

- ・国交省から認可が下りるまでの期間を考えると，今の段階から早急に準備を進めなければならないと思う。
- ・区役所が移転するからといって，そこに路線バスを走らせるという新たな事業者が現れるとは思えないが，バス事業者の立場としてどう思うか？
▷ 新潟市もしくは東区が事業主体で，運行を委託するならば，手を上げる事業者はあると思うが，事業者が単独で運行すると，なかなかやれるところは無いと思う。
- ・単に利用目的が区役所というような考え方だけでは，区民のニーズに答えることは到底できないと思っている。
▷ バス事業者の立場からだと，新しい路線を引く判断基準の最たるものは，本当にそのニーズがあるのかどうかである。信楽園病院を例にすると，その病院へ通うというニーズだけではなく，その途中のお客さまのニーズがあったとともに，バスの折り返しにもメリットがあった。従来の内野営業所で折り返すより距離が短くなり，運行回数を増やすことができた。

- ・新しいルートも良いが、東西方向にかなりのバス路線があるのに対し、南北への路線が無いというのが東区においては非常にネックになっている。南北を充実させて、従来の東西の路線と結節点を多くできれば、利便性を考えても良いのではないか。採算性等を考えると、小回りの効くルートにして南北を充実させた方が効果があると思う。
 - ▷ 区役所に行きたいニーズがどれ位あるのかということが大切。以前、赤道を通る路線はいくつかあったが、需要が少なくすべて廃止になった。そういう経緯があるということとは認識してほしい。
- ・区役所が移転するからそこに行く路線を考えてもらえないかということで、採算性を考えた中で新潟駅を経由する循環型のバス路線を部会で考えてみた。新潟交通さんに検討してほしい。新たに設置するバス停は3つか4つなので、そんなに経費はかからないはず。かえって循環バスの方が乗客を集めるのに適していると思う。
 - ▷ この循環バスは何を目的とするか、新区役所へ行くためのアクセスを確保したいということならば、そのニーズがあるかどうか問題になる。
- ・第3部会として更に内容を検討し、早めに新潟交通さんへ働きかけをしていきたい。あと2～3回で部会としての結論を出したい。その後、自治協議会に報告した上で、東区から正式にお願いをしていくことになろうかと思う。

○ その他

- ・次回の部会開催は、3月12日（金）午後2時から中地区公民館集会室で行う予定。